



2026年10月29日

各 位

会 社 名 株式会社シャルレ
代表者名 代表取締役社長 林 勝哉
(コード番号 9885 東証スタンダード)
問合せ先 経営戦略部長 柿原美代子
(TEL 078-302-7372)

収益改善策の取り組み並びに中期経営計画見直しに関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会にて業績予想の修正及び希望退職の募集及び特別損失（見込み）の計上を決議いたしました。今後の対応として、中期経営計画の進捗並びに足元の業績状況を踏まえ、中核事業であるシャルレ事業の収益改善策の取り組みを優先、集中的に取り組むとともに、現行の中期経営計画を見直すことを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 中期経営計画の進捗と業績悪化の要因について

当社は、2024年10月29日発表いたしました中期経営計画（2024年4月～2029年3月）に基づき、シャルレ事業の業績回復や資本コスト経営の実現に向けて取り組んでまいりました。これにより、創業50周年を契機とするリブランディングによる企業イメージの刷新、自社メディアによる若年層顧客の誘引、本社や事業所等の移転や集約による遊休資産の活用やコスト削減、また新たな収益事業として高い技術力を持つグループ会社の買収等で一定の効果を創出してまいりました。

一方で、新規顧客の獲得以上に高齢化による離反顧客が増加し、販売員の売上低迷がより顕著化すると共に、原価高騰や在庫評価減による当社のコスト構造が悪化したことで、続けて営業赤字を計上する等、足元の業績に関して深刻な収益性の悪化が見られ、現行の中期経営目標との大きな乖離が生じております。

将来的な事業構造改革に必須となるシステム投資についても、組織販売をベースとする訪問販売という独自のビジネスモデルであるため、事業規模に対して、システム運営費負担が大きく、事業構造改革に向けての新規投資に対する足枷となり、結果として事業構造改革の進捗に遅れが生じております。

2. 収益改善策の取り組み並びに中期経営計画見直しについて

当社は、足元の業績回復に優先的にリソースを配分し、収益悪化に歯止めをかけることを目的とし、以下の収益改善策を集中的に実行してまいります。これにより、次年度である2028年3月期には収益改善策の効果を創出しグループ全体での黒字化を目指してまいります。

なお、現行の中期経営計画の基本方針であるシャルレ事業の事業構造改革、グループシナジーの最大化、資本コスト経営による資本効率向上を引き続き推進し、さらなる成長戦略を加えた中期経営計画の見直しを行うこととしました。見直しの時期は改めて発表いたします。

項 目	概 要
①商品ポートフォリオの見直しと 原価低減	・高付加価値、高粗利商品のシェア拡大 ・調達方法や開発手法の見直し
②販売手法や需要予測の改善	・販売方法変更等による在庫ロス低減 ・需要予測手法の見直しによる改善 ・長期在庫や仕入数の抑制
③販売組織の拡大	・新たなインセンティブ制度の導入 ・営業支援体制の再構築
④販促プロモーションの強化	・若年層に向けた通販サイトの刷新やSNSの強化 ・訪販活動促進につながる販促ツールの見直し
⑤業務見直しによる生産効率向上	・業務の統廃合とアウトソーシングの活用 ・業務AI導入による社内業務の効率化 ・組織、人員体制の効率化
⑥システム費の削減	・業務改革による既存システムの削減
⑦資本効率の向上	・運転資本（売掛金・仕入高・在庫高）の改善

各収益改善策の取り組みの推進に伴う業績に与える影響がわかり次第、発表いたします。

以 上